

国際交流員として2004年から2年間、青森県で国際交流に奮闘された鄧仁有さん、その時の滞在記は4月号まで「鄧さん頑張る」として‘わんりい’に掲載されました。その後帰国され、山西省太原市にある旅游学院の日本語ガイド養成コースで教鞭をとられています。これから数回、鄧さんが執筆した日本語ガイド資格試験用テキストから、山西省の名所旧跡をご紹介します。

山西省の省都・太原は2,500年の歴史があると言われ、古くから「晋陽」と呼ばれています。春秋時代、晋の定公15年（紀元前497年）、晋国の重臣・趙簡子趙鞅が家臣の董安于に命じて晋陽城を築城させました。当時の晋陽城は今の太原市から西南30キロ程の晋源区古城営村にありました。晋水と呼ばれる川の北側にあるので「晋陽」と呼ばれていました。

紀元前248年の戦国時代の後期、秦の大將蒙驁が趙に攻め込み、晋陽を占領して太原郡を設けました。27年の後、秦の始皇帝が六カ国を滅ぼし、国を統一しました。全国に36の郡を設けて、晋陽城を太原郡の中心地としました。漢の武帝の時代に全国を13の刺史郡に分け、晋陽を并州刺史郡の中心地としました。それで、晋陽は「并州」と呼ばれているのです。太原の略称「并」はここから由来しています。

隋と唐の時代に太原は最も盛んな時代を迎えました。隋の文帝が太原を軍事要塞とし、相次いで三人の息子の楊広（晋王）、楊浚（秦王）、楊諒（漢王）を遣わし、晋陽を守らせました。隋の時代の末期に、李淵は隋の煬帝に「山西河東撫慰大使」に任命され、太原とその近郊を守る武将になりました。しかし、専制政治と搾取を続ける煬帝に対し、反乱の烽火が各地に上がり、617年息子の李世民と太原から蹶起し、汾河と渭河に沿って、半年もかからずに隋の都の長安を攻め取りました。

唐の時代は太原の「黄金時代」でした。太原は唐



太原市街と迎沢大橋。この橋は山西省を南北に流れる汾河にかかる巨大な橋。全長970メートル、幅50メートル。

(中国サイト百度百科より)

王朝の創業の地で、北方の軍事要塞にもなっているので、唐王朝に特別に重視されていました。晋陽を太原府に格上げしたので、「北都」や「北京」と呼ばれました。当時の晋陽城は汾河をまた



(ウィキペディアより)

いで、東部、中部、西部に分けられました。晋陽城は工業が大変繁栄し、冶金、鑄造、磁器、醸造業が全国に知られ、その影響は東南アジア諸国にも及び、この雄大な晋陽城は唐の時代の北方の重要な砦として、後の「安史の乱」の反乱軍を防ぐ為に大きな役割を果たしました。その後の五代十国時代、後唐、後晋、後漢の皇帝は太原から皇帝の座に就いたので、太原は「龍城」と呼ばれています。

979年、宋の太宗・趙光義が自ら兵を挙げ、北

漢の晋陽城を五ヶ月間に渡って取り囲み、降伏させました。趙光義は宋王朝の統治に不利にならないように、晋陽城に火を放ち廃墟としました。後に流民を安住させるために、かつての晋陽城の北側に土城を建てました。この土城は半世紀の間に次第に大きく発展し、再び「太原府」と呼ばれて、「錦繡太原城」の美称を与えられました。土城内には「丁」字型の通りしか作らず、これはもとの「龍城」の龍を釘付けにするという意味です。

明の始め頃、太原は九つの辺境地の一つとされ、太原城は拡大され、強化され、北方民族の侵入を防ぎました。明・清2代、太原は「太原府」と呼ばれ、民国元年に「陽曲県」と改称し、山西省の省都になりました。1927年には「太原市」になり、今に至っています。



太原市の汾河兩岸に設けられた汾河公園

(ウィキペディアより)